

2011年度

科目名	国際協力論B			
担当教員	岡島 克樹			
配当	人社2		コード	53049
開期	後期	講時	金曜日3限	単位数 2
授業テーマ	日本と途上国のつながりをよりよいものにするにはどうすればいいのかを考える。			
目的と概要	現在のグローバル化する世界構造のマイナス面を是正し、プラス面を拡大する動きとしての国際協力とは何かを考えるとともに、国際協力を行う国連機関や政府系機関、非政府組織(NGO)とその具体的な諸活動について学ぶ。			
成績評価法	授業への参加・協力(発言・グループワーク・とくに外部講師招聘時の参加)(20%)、期末レポート(80%)			
テキスト	特に定めない。			
参考書	適宜、紹介する。			
履修に当たっ ての注意・助言 /準備学習	本講では、予算の許す範囲において、大学の外にある人材を外部講師として学内に招き、国際協力の現場について語っていただくので、外部講師が話をされる回については必ず参加するようにしてください。外部講師が来校される日程が決まり次第、講義の中で伝達する。  適宜、参考図書を伝えるので、可能な限りこれらに目をとおすことを奨励する。			
講義計画				
<p><b>【基本的な考え方】</b>            講義は、国際協力の機関や分野に関する基本的な文献読解の他、海外青年協力隊の活動を紹介する外部講師やビデオ、NGOの活動を紹介する外部講師を招くなど、国際協力の現場をより想像しやすいようにしながら、展開する。</p> <p><b>【具体的なスケジュール】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. はじめに一国際協力の定義と隣接概念との相違</li> <li>2. 国際協力の動機—国益説・私益説・公益説など異なる考えの紹介</li> <li>3. 国際協力の目的の変遷—経済開発・社会開発・人間開発</li> <li>4. 国際協力の目的の変遷—人間の安全保障とはなにか</li> <li>5. 国際協力には誰がかかわっているのか—国際協力の様々なアクター（総論）、国連機関（各論）</li> <li>6. 日本のODAの特徴とはなにか—予算規模とその配分</li> <li>7. 国際協力には誰がかかわっているのか—ODA（各論）（外部講師）</li> <li>8. 国際協力には誰がかかわっているのか—NGOの事例紹介（外部講師）</li> <li>9. ODAとアドヴォカシー—政府とNGOの定期協議・世界の動き</li> <li>10. 国際協力の案件形成と評価—PCM導入の歴史的背景としての住民参加とNPM</li> <li>11. 国際協力の案件形成と評価方法—PCMの基本ステップ</li> <li>12. 国際協力の案件形成と評価方法—PCMを使った問題分析・目的設定のバーチャル体験</li> <li>13. 国際協力の案件形成と評価方法—PCMを使った企画案（PDM）作成と評価5項目</li> <li>14. レポートの書き方指導</li> <li>15. まとめ</li> </ol>				